

2021年11月28日 第43回アメリカ服飾社会史研究会オンライン講座のレポート その1

期日:2021年11月28日(日)10:30~1:20

場所:オンライン&ガレリア3階会議室

ゲスト:濱田雅子さん(アメリカ服飾社会史研究会会長)

タイトル:

コーディネーター:児嶋きよみ

オンライン参加者:7名(濱田雅子さん含む)

1. R.Y.さん(せせらぎ出版代表取締役)
2. M.M.さん(鹿児島国際大学 大学院経済学研究科 教授)
3. A.N.さん(武庫川女子大学共通教育部教授)
4. K.I.さん(関西学院大学非常勤講師)
5. R.O.(おおぎ)さん(神戸大学文学部人文学科 1年)
6. S.H.さん(法政大学通信教育部文学部史学科)

亀岡ガレリア参加者:6名

1. K.O.さん
2. E.T.さん
3. S.T.(S.K)さん
4. H.K.さん
5. R.S.さん
6. 児嶋きよみ 計:13名

自己紹介

濱田さん:今日は、学生さんでホームページを見て参加した方もいらっしゃいます。Joan Severa さんという方の紹介と分析を通じて近代アメリカにおける写真に見る風俗研究を論じていきたいと思います。率直なご意見をいただき、自分の再出発の機会にしたいと思います。

R.Y.さん:せせらぎ出版から濱田さんのご本を2冊出版しています。

M.M.さん:鹿児島の大学で指導していますが、大阪に住んでいます。飛行機で通っています。

A.N.さん:武庫川女子大で教育社会学が専門です。ジェンダーの研究をしていて、今も濱田先生にお世話になっています。

R.O.さん:神戸大の1年生です。ホームページから興味があり、応募して入っています。

S.H.さん:法政大の通信教育で史学科に属しています。服飾史に興味があります。

H.K.さん:大津市から来ていて、琵琶湖の近くに住んでいます。コロナ禍では、休みが多いですが、ツアーガイドをしています。Global Session ははじめのころから参加しています。

K.O.さん:宇治市で小学校の非常勤講師をして7年目です。それ以前は、正規の教員をしていました。

S.T.(S.K.)さん:立命館守山高校の教員です。国際理解教育の分野でブラジル人学校なども訪問し、先日は漢字の勉強をしました。

R.S.さん:濱田さんの Global Session も何回目かです。ファッションの歴史ですが、いろいろな要素を含んでいて楽しみです。ひまわり教室(外国につながる子どもや保護者の学習支援教室)で指導をしています。

E.T.さん:以前、濱田さんの講座の時にはちょうど、仕事を代わったころでしたが、8月からは島津製作所で仕事をしています。

鶴山さんには、亀岡国際交流協会との共催で、オンライン講座も含む準備をいただいています。

講座開始

濱田雅子の服飾講座「服飾からみた生活文化」シリーズ21

「アメリカの写真が語る民衆の装い(その1)ー1840年代の民衆の生活文化を垣間見るー」

概要 Joan Severa, *Dressed for the Photographer, Ordinary Americans and Fashion (1840-1900)*, Kent State University, Ohio, Kent, 1995. p.592. 本書は J・セヴラ女史(Joan Severa,1925-2014)が 30年と言う歳月をかけて取り組まれた大作で、アメリカの服飾研究者から高く評価されています。彼女はウイスコンシン・ミュージアム歴史協会の学芸員を 30年にわたって歴任する傍ら、アメリカ服飾学会の理事や多くの博物館のコンサルタントとして活躍してこられました。本書は、ミドルクラスや下層階級のアメリカ人たちが、ダゲレオタイプの銀板写真技術が導入された 1840年から 1900年の 60年間に、記念写真や日常生活の写真に、どのような装いでおさめられたのか、かれらのバックグラウンドや服装のディテールの分析も含めて、マテリアル・カルチャー(物質文化)の視点から書かれた大作です。掲載された写真は何と 277 枚。服飾の専門家の視点で写真のなかの服装が的確に分析されています。ヨーロッパやアメリカの上流階級の装いを扱った書物は、沢山、ありますが、アメリカの庶民、すなわち、アメリカの民衆の装いを扱った書物は、J・セヴラ女史の上記の著作以外には、一冊もありません。ダゲレオタイプ(Daguerreotype)とは、ルイ・ダゲール(Louis Jacque Mande Daguerre,1787-1851)により発明され、1839年 8月 19日にフランス学士院で発表された世界最初の実用的写真技法であり、湿板写真が確立するまでの間、最も普及した写真技法です。銀メッキをした銅板などを感光材料として使うため、日本語では銀板写真と呼ばれています。銀板上に直接左右反転した白黒画像を得るダイレクトプロセスです。この技術のアメリカへの導入と普及について、セヴラ女史はこう述べています。「1839年の晩秋、ルイ・ダゲール(Louis Jacque Mande Daguerre, 1787-1851)が開発した独自の手法による写真撮影[ダゲレオタイプ]の権利と装置を販売する公認代理人が、ブリティッシュ・クイーン号でニューヨークに到着した。ダゲールの業績はすでにアメリカでとてもよく知られており、多くの者がその権利の購入を申し込んだ。文字通り数週間のうちに、あらゆる都市や町で何百人もの駆け出し写真屋が店開きした。それは絶対確実な成功への道であった⁽¹⁾」ということです。また、銀板写真の普及は、西漸運動に伴い、急速に進みました。「実際、西漸運動によって肖像写真を撮ってもらう人は何千人も増えた。というのも、西へ向かう人びとは自分の写真を後に残し、家族や友人が写った貴重な写真をたずさえて行ったからである。アメリカでは 1850年代までに、毎年およそ 300万枚のダゲレオタイプが作られ(Taft 76)、それとともに価格は下がっていった⁽²⁾」ということです。セヴラ女史は、現存する銀板写真を全米から収集し、

こう述べています。「これらの古くなった写真はほんのわずかしかなかった。とはいえ、これらの残存している映像は広範な社会的な基礎を包括しており、当時のマテリアルカルチャーの写真が非常に確かなまとまった情報を残してくれている⁽³⁾」本講演では本書において、10年単位で扱われている60年間(1840年～1900年)のうち、1840年代の10年間にわたる写真に見るミドルクラスや下層階級のアメリカ人、すなわち、アメリカの民衆の装いの紹介・分析を試みたいと思います。分析の視点は、アメリカ人がいかにヨーロッパ・フレンチ・ファッションに憧れていたか、ヨーロッパ・フレンチ・ファッションとアメリカンファッションの類似点と違いは何であるか、という点に据えられます。1850年代から1900年についても本講演と同じ手法で5回に分けて、講演させていただく予定です。19世紀アメリカの民衆の生活文化を、装いを通して、ビジュアルに学ぶ、またとない機会です。知らないことを知る「知の楽しみを」エンジョイなさって下さい。

全体構成

1. ジョーン・セヴラ女史の写真資料を用いた研究方法
2. 写真技術史の概要
3. 19世紀ヨーロッパの服飾
4. 1840年代アメリカの歴史的背景
5. 1840年代アメリカの写真が語る民衆の装い
6. 19世紀アメリカの庶民服の実物調査からの報告
—ミネソタ大学 Goldstein Museum of Design のコレクションから—
7. まとめ

【注】

- (1) Joan Severa, *Dressed for the Photographer, Ordinary Americans and Fashion* (1840-1900), Kent State University, Ohio, Kent, 1995, p.1.
- (2) *Ibid.*, p.1, cited from Robert Taft, *Photography and the American Scene*, New York: McMillan Co., 1938, p.76.
- (3) *Ibid.*, p.1.